

請願署名にご協力ください！！

これまで、B型肝炎訴訟原告団・弁護団は、肝炎医療費助成を求めて請願署名活動に取り組み、合計で64万筆の署名を国会に届けてきました。昨年は、約270名もの国会議員に紹介議員となっただき、参議院では請願署名が採択されました。障害認定基準の緩和や定期検査費用助成の拡大など、具体的な成果も出ています。

もっとも、ウイルス性肝硬変・肝がん患者に対する医療費助成等の実現には至っておらず、残された課題もあります。

そこで、B型肝炎訴訟原告団・弁護団は、引き続き今年も請願署名活動に取り組んでいきます。

つきましては、所定の署名用紙で署名を集めていただいて、弁護団に郵送をお願いします。署名用紙は1枚につき10筆署名できるようになっていますが、1筆からでも郵送いただいて結構です。

集約の関係から、4月下旬を目処にお送りいただければ幸いです。

(請願項目)

- 1) ウイルス性肝硬変・肝がん患者に係る医療費助成制度づくりを早急に検討し進めてください。
- 2) 既に着手しているB型肝炎ウイルスを排除する治療薬等の研究開発を加速してください。
- 3) 潜在する肝炎患者・感染者の早期発見と適切な治療のため、肝炎ウイルス検診を更に促進し、陽性者を受診・治療に結びつけるフォローアップ施策にいつそう力を入れてください。

○署名用紙のお問い合わせ先・ご送付先

署名用紙を郵送でご希望の方は以下の連絡先までご連絡ください。

全国B型肝炎訴訟弁護団
事務局：東京法律事務所
東京都新宿区四谷1-4 四谷駅前ビル
TEL03-3352-7333

衆議院議長 殿
参議院議長 殿

平成 28 年 月 日

ウイルス性肝硬変・肝がん患者の療養支援と
B 型肝炎ウイルスを排除する治療薬等の研究・開発促進及び
肝炎ウイルス検診の更なる推進を求める

は請願
欄人
で・紹
介議
員
欄
す

請 願 書

請願団体 日本肝臓病患者団体協議会
〒161-0033 東京都新宿区下落合 3-14-26-1001
電話(03)5982-3159 FAX(03)5982-2151

請願人氏名 (印)
請願人住所
紹介議員 (印)

請願項目と請願の理由

1. ウイルス性肝硬変・肝がん患者に係る医療費助成制度づくりを早急に検討し進めて下さい。

我が国のウイルス性肝炎患者・感染者は現在 250 万人と推定（厚労省）されています。死亡者数は 1960 年代と比較し 2000 年代は 4 倍以上の 45,000 人にのぼり、これまでに 100 万人以上が肝硬変や肝がんて亡くなっています。現在の年間死亡者数は 35,000 人余となりました。毎日、約 100 名の患者が命を失っています。

こうしたウイルス性肝炎の感染拡大の原因については、平成 21 年 12 月に成立した肝炎対策基本法の前文に「B 型肝炎及び C 型肝炎に係るウイルスへの感染については、国の責めに帰すべき事由によりもたらされ、またはその原因が解明されていなかったことによりもたらされたものがある。」と記載され、肝炎ウイルス感染拡大の責任が国にもある——と明記されました。さらに予防注射と同様、一般医療においても、針と筒の消毒や取り換えが不十分なことや、長期の売血制度による輸血等での血液感染が、ウイルス性肝炎の蔓延を拡大させたとされています。

このようなウイルス性肝炎問題が抱える特殊事情を受け、肝炎対策基本法第 15 条には「国及び地方公共団体は、肝炎患者が必要に応じ適切な肝炎医療を受けることができるよう、肝炎患者に係る経済的な負担を軽減するために必要な施策を講ずるものとする。」とあり、これを受けて国に肝炎対策推進協議会が設けられて肝炎対策基本指針が制定され、都道府県には肝炎対策協議会が設けられて啓発活動と共に治療及び検診体制の構築と推進が行われてきました。また抗ウイルス薬が次々と開発され高額な医療費助成が実施され、多くの患者がその恩恵に預かり感謝しています。ただ、平成 25 年に長崎医療センター臨床研究センター長、八橋弘医師の厚労科学研究「病態別の患者の実態把握のための調査」が発表され、患者が置かれている厳しい状況が明らかになっています。平成 27 年 6 月に、肝炎対策推進議員連盟が設置され関係者と協議が行われており、肝炎対策が前進して来て、今後一層の拡充が期待されます。

現行の医療費助成は抗ウイルス治療や重症化予防のための検査費用で、主として症状が軽い患者が対象になっています。重い患者を対象とした身体障害者手帳は平成 28 年度より認定基準の緩和が予定されています。医療費助成の対象は従来より拡大されますがやはり一部に限定されます。高齢化・重篤化により精神的・肉体的・経済的に一層負担が増える肝硬変・肝がん患者が安心して治療を受けられる医療費助成制度の創設が早急に求められています。

2. 既に着手している B 型肝炎ウイルスを排除する治療薬等の研究開発をいっそう促進して下さい。

抗ウイルス療法への医療費助成のもとで、C 型肝炎については、ほぼ完全にウイルスを排除出来る高額な新薬を平成 27 年 9 月から使用出来るようになりました。しかし、B 型肝炎はウイルスを排除出来る薬がまだ開発されていません。核酸アナログ製剤（抗ウイルス薬）によりウイルス量をコントロール出来るようになりつつありますが、肝炎ウイルスが排除されない限り、常に肝がん発症の危険性から免れることが出来ません。国もすでに特別予算を投じてウイルスを排除する画期的な治療薬等の研究・開発に力を入れていますが、一日も早い創薬実現が望まれます。

3. 潜在する肝炎患者・感染者の早期発見と適切な治療のため、肝炎ウイルス検診を更に促進し、陽性者を受診・治療に結びつけるフォローアップ施策にいっそう力を入れて下さい。

平成 26 年 7 月の厚労省肝炎対策推進協議会資料によると、平成 23 年現在、肝炎ウイルスの感染を知らない潜在キャリアは 80 万人程度、入通院している患者は 80 万人位、感染を知りながら継続的に受診をしていないキャリアは 53～120 万人程度です。新しい治療薬が開発された今、潜在患者・感染者を検診によって掘り起し、治療に結びつけていくことが今後の医療費削減に大きく寄与しこれまで以上に重要度を増しています。スピーディーかつ効果的なウイルス検診の実施と陽性者の受診促進が必要です。以上の理由から、私達は下記の請願を致します。

